

「透明性あるコミュニケーション コロナで日本工学アカデミー提言」

緊急事態が起きてからではなく平時から科学者の集団的力を結集できる体制を構築することなどを求めた日本工学アカデミーの報告書が、6月22日に衆議院第一議員会館で開かれた「政治家と科学者の対話の会」で報告された。新型コロナウイルス感染拡大によって露呈された日本社会の多岐にわたる問題点を検討し、今後の経済社会システム変革の方向を示している。危機管理に当たる司令塔機能の強化に加え、政府と専門家の間で透明性のあるコミュニケーションが図られ、かつそれが国民の目に見えるようにする方策などが提言されている。



「政治家と科学者の対話の会」（6月22日、衆議院第一議員会館）

国会議員との議論も反映

日本工学アカデミーの報告書「ポストコロナ時代に向けた科学技術・イノベーションの在り方」は、昨年8月に同アカデミーが設けたポストコロナ検討委員会が8回にわたる会合を重ねてまとめた。昨年12月に開かれた国会議員有志と日本工学アカデミー会員による「政治家と科学者の対話の会」の第1回会合で、ポストコロナ検討委員会の共同議長を務める原山優子日本工学アカデミー副会長（理化学研究所理事、前総合科学技術・イノベーション会議議員）が、それまでの検討結果を報告し、国会議員たちと活発な議論が交わされた。

「政治家と科学者の対話の会」は、立法府とアカデミアが密接に協力し、科学的根拠に基づく政策立案を目指そうとする新しい動き。6月22日に3回目となる対話の会が衆議院第一議員会館で開かれ、この席で日本工学アカデミーの森本浩一常務理事から報告書の内容が報告された。

報告書は、感染症研究体制の抜本的強化を図る具体策をはじめ、ポストコロナ時代に求められている新しい社会のありように関するさまざまな提言を盛り込んでいる。森本氏が「第1回政治家と科学者の対話の会」で国会議員から出た意見も取り込んだとして強調したのが「政策対話とリスクコミュニケーション」に関する提言。第1回対話の会では伊佐進一公明党衆議院議員から、政治家と科学者との対話では「リスクコミュニケーション」「透明性」「倫理」の三つを念頭に議論を進める必要があるとの考え方が示された。また大野敬太郎自民党衆議院議員からも、リスクコミュニケーションではフィードバックが重要になるという指摘があった。

透明性あるコミュニケーションを

「危機管理体制の強化には、司令塔機能の強化とともに、政府と専門家間で透明性のあるコミュニケーションが図られている実態が国民の目に見えることが重要。政治と科学の間に信頼関係を構築するためには、政治家・政策決定者と科学者間で、明日をより良い方向に導くための前提を共有し、対話を積み重ねていくなど、政策共創能力を高めていく息の長い交流活動が不可欠である」。「第1回政治家と科学者の対話の会」での議論を踏まえ、こうした表現が報告書に盛り込まれた意義を森本氏は強調した。

新型コロナウイルス感染拡大防止に際しては、国民一人一人にさまざまな行動変化が求められた。この際にも重要視されたのが、信頼できる専門家による科学的根拠に基づく国民とのコミュニケーション。報告書は、専門家側にはエビデンスに基づく論理（ロゴス）による説明を重視することに加え、感情に訴える情熱（パトス）が必要であるとし、さらにコミュニケーションは専門家からの一方的なものではなく、国民からの要望にも応える双方向的なコミュニケーションでなければならないことも強調している。



「第1回政治家と科学者の対話の会」で原山優子日本工学アカデミー副会長（右端）と議論する国会議員たち（2020年12月9日、衆議院第一議員会館）

データ駆動型社会に

このほか報告書に盛り込まれた主要な提言は次の通り。

感染症の危機を明日への飛躍に転換：地球規模の危機を明日への飛躍に転換するためには、今日の経験を将来世代に貴重な教訓として継承しながら、学習し進化する経済社会システムとして発展させていくことが切望される。

データ駆動型社会への移行：適切な意思決定を迅速に行うためには、正しい情報をタイムリーに収集し、市民一人一人が自ら考え行動できるよう、広く情報共有することが必要。都道府県・市区町村・保健所管轄区域ごとに収集されたデータを国全体として集約し、幅広い活用が促進されるよう、オープンデータの推進が求められる。

異分野融合による感染症研究体制の抜本的強化：平時には長期的視野からの感染症基礎研究の支援、緊急時には戦略的なリーダーシップにより診断、予防、治療の研究支援ができる米国生物医学先端研究開発局（BARDA）のような機構の整備が望まれる。アカデミアと企業間の効率的な連携を可能とする異分野融合の研究プラットフォームの整備も必要。

検査・診断から予防・治療に至る医療体制の拡充と高度化：パンデミックにも対応できる持続可能な医療体制の再構築が求められる。検査機関に対する第三者認定の付与などによる大規模な検査の効率的実施、PCR 検査対象者の大幅な拡大、ウイルスの全ゲノム解析体制の拡充や変異ウイルスを迅速に検出する手法の開発、ワクチン・治療薬の特例承認の在り方を再考し、社会全体で認識を共有することも必要。ヒトの多様な免疫反応を多次元・高解像度で解析してワクチンを設計するなど、新次元のワクチンデザインの開発も重要。

感染症に対する危機管理体制の抜本的強化：感染症対策については、個人情報保護法等の規定の例外措置として位置づけ、統一的なルール策定と整合性のとれた情報システムを早急に構築する。自治体感染症担当者のスキルアップと十分な人員の確保、キャリアパスの構築。医療資機材にも医薬品・医療機器と同様、統一的なバーコードを付してナショナルデータベースとして集約、危機に備えた医療ロジスティクスを再構築することも必要。

グローバル・コモンズの創出を目指した国際連携：経済力の脆弱な国・地域のさらにマインリティと呼ばれる集団にまで、廉価で簡便なワクチンの分配を広く展開・普及していくための国際貢献が必要。若手をはじめとする学際的な研究者集団による組織的な英知の結集により、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成に向けたさらなる協力の推進も。

EAJ 報告書 2021-01

**ポストコロナ時代に向けた
科学技術・イノベーションの在り方**



令和3年(2021年)5月

公益社団法人日本工学アカデミー

ポストコロナ検討委員会
(共同議長：原山優子・永井良三)

進む政治家と科学者の対話

報告書を公表した日本工学アカデミーは、工学者や科学技術に関心の深い人々を会員とする。国内外で日本の科学者を代表する機関とみなされている日本学術会議と異なり、政府から全く独立した機関だ。科学的エビデンスに立脚した政策の立案、遂行に対する立法府の役割は重大であるにもかかわらず、アカデミアが創出する知的情報を的確に立法府に届ける確かな道筋が希薄。こうした日本工学アカデミーの持つ強い危機感と呼び掛けに賛同する国会議員との間で、「政治家と科学者の対話の会」を定期的に開くことが決まった。

3回目となる対話の会のこの日のテーマは「インクルーシブなSTEM教育研究環境構築に向けた共創」。心身に障害を持つ人々でも研究、学習できる環境整備を進める東京大学の「インクルーシブ・アカデミアプロジェクト」で中心的な役割を果たしている先端科学技術研

究センターの熊谷晋一郎准教授、並木重宏准教授、綾屋紗月特任講師が、障害がある人も研究、学習ができるインクルーシブ（包摂的）環境の実現に向けた取り組みと、こうした取り組みがなぜ必要とされているかについてそれぞれ詳しい報告をした。



熊谷晋一郎東京大学先端科学技術研究センター准教授(6月22日、衆議院第一議員会館)

日文 小岩井忠道（科学記者）

関連サイト

日本工学アカデミー報告書「ポストコロナ時代に向けた 科学技術・イノベーションの在り方」

[eaj-report-proj-20210513-01.pdf](#)

日本工学アカデミー「第3回 政治家と科学者の対話の会の開催」

[EAJ 政策共創推進委員会 - 第3回 政治家と科学者の対話の会の開催 - 日本工学アカデミー](#)

関連記事

2021年04月09日「日本国会议员与年轻科学家交换意见，加深共同制定政策的理解」

[日本国会议员与年轻科学家交换意见，加深共同制定政策的理解 - 客观日本 \(keguanjp.com\)](#)

2020年12月24日「日本国会议员与学术界合作，实现科学制定政策」

2020年07月08日 “日本将开启国会议员与学术界共同制定政策”